

スロープソアリング安全フライト

2018年1月 関根正慶

丹沢、西天城、大野山をはじめ、各地でスロープの自由フライトを楽しむ機会がありました。競技会は進行役の指示に従って飛行するのであまり問題にならないのですが、自由フライトでは各自が自分のペースで飛ばすので衝突などの事故が起きやすいと感じています。スロープはたまにしかやらない人には、何がどう危険なのか判らないことが多いようです。そこでスロープで自由フライトを楽しむ方のために、安全フライトのノウハウのようなものをまとめてみました。グライダーには慣れている人を対象にしましたので、整備や操縦に関する一般的な事はここでは触れません。安全性を上げるための知識として利用してくれればと思います。改善点などあればご意見を頂ければと思います。

■発航

通常スロープソアリングでは操縦者から見て左右に機体を飛ばしているのですが、発航はその航路に対して直角に飛び込む訳ですから、何もしなければかなりの確率で衝突します。そこで下記の様なルールがいいでしょう。

- すでに飛んでいる機体、着陸しようとしている機体が、発航する機体よりも優先。
- 発航するときは大声で宣言し、自分でも他の機体が来ないことを確認してから投げる。
- 飛行中の操縦者は声を掛けあい、発航した機体の進入路と高度を稼ぐエリアを譲る。

■フライト中

空域が広い場所であっても、しばらく飛ばしていると、飛ばしやすい航路は誰にとっても同じで、航路がだいたい揃ってきます。こうなると空中衝突の危険性が高まります。

- 人数が多いときは、仲間内で同時飛行の最大機数を予め決める。カードのようなものを掲示し、同時飛行機数の管理を行うと便利。
- 不公平感をなくすように、一回のフライト時間の目安も申し合わせると良い。人数が多いときは20分くらいがいいでしょう。待っている人は言い出しにくいものです。空いているときは何時間でもOK。



- ダイブしてローパスをする場合は、その方向や航路を事前に仲間内で決める。ローパスに入るときは宣言をする。「左から突っ込みま〜す！」など。
- 縦系曲技、左右往復のスピード競技の練習や、複数機での競争を行うときは、宣言の上、他に同一航路を飛ぶ機体が居ないことを確認した上で行う。競争をするときは、衝突しそうな時にどちらがどっちに逃げるか事前に決めるとよい。
- というわけでお互い声を掛け合って飛ばすことが必要ですので、結果的に操縦者どうしの声が聞こえる距離に居た方がよく、操縦者が横一列に並んで操縦すると便利なわけです。こうして出来た現象を一部では「オッサン直列」と呼んでいます。立つ位置も風向きと地形に合わせて相談するといいいでしょう。



- 発航は、この列の前か横の見えるところで行うこと。後ろからだとならぶと操縦者にぶつかる危険性があり、空域を譲ってあげることも出来ません。

★リフトが無くなったとき

リフトが弱くなるとサーマルがある場所でサークリングが始まるのですが、左右に飛ばしている人がそこに突っ込むと当然衝突します。更にリフトが弱くなると、次第に何機もが一斉にリフトがある場所に集まり、更に弱くなると精神的にも焦ってくるので衝突事故がより起きやすくなります。

- サーマルで高度を取るときは「サーマル旋回中です」などと宣言。他の操縦者からはどこで旋回しているのかが判らないので、「何時の方向」「海の方」などと位置をイメージできるように言うといい。
- パニックになっている操縦者には、サーマルが出ている場所を同様な方法で方向などを教えると良い。
- サーマルサークリングは、電動機よりも無動力機が優先とする。電動機はさっさとモーターを回して上がるか、無動力機にぶつからないよう充分離れてサークリングする。

■着陸

通常のラジコン飛行場では、滑走路は着陸してくる飛行機が優先で、人は速やかに立ち退く必要があります。ところがスロープは事情が別で、着陸する場所で機体回収や捜索が行われている可能性があります。そのためスロープでは着陸地点に人が居ないか、操縦者が事前に確認する必要があります。スロープでは想定した場所に必ずしも着陸できない事が多いので、回収している人とは離れていると思っても危険な事が起こります。



- 慣れない場所では、着陸の定番コースを教わるか自分でイメージトレーニングなどしてから飛ばす。
- 着陸をするときは宣言し、エリアに人が居ないことを事前に確認してから体制に入る。特に回収や捜索の人に注意する。
- 回収しに行く人は、しばらく着陸してくる機体がないことを確認して、宣言してからエリアに入る。
- トラブルやリフトが急になくなった時などパニックで着陸するときは、その旨大声で宣言して注意を促し、安全な場所に降ろす。



その他、フライト以外のこと

■ 空中衝突

前述の注意事項を守っても空中衝突をする場合が有ります。お互いにリスク覚悟で遊んでいるのですから、原則、機体どうしについては保証なし、恨みっこ無しであるべきと思います。

■ 機体捜索と回収

機体捜索は複数人で助け合う必要があります。ただその仲間に少しでも無駄な時間をかけさせない為の配慮が必要です。また山での機体捜索では捻挫などのちょっとしたトラブルでも大きな事故に結びつく可能性があります。事故には至らなくても、捜索に行った人が何時までも戻ってこない、残った人はその人を探す為に時間を割かなくてはなりません。

- 捜索には仲間の強力を仰ぎ、頼まれた方も自分の事のように手伝えるのが原則。途中で容易に機体が発見できない、回収できそうもないときは、一人でやらずに応援を頼む。
- 機体には機体発見ブザーを付ける。仲間にも無駄な時間を費やさせないようにする。また捜索中にバンドを占有する必要がないよう、フェイルセーフ機能を利用し、送信機 OFF で機体発見ブザーが鳴るようにセットしておくとい。
- 捜索に行くときは季節にかかわらず、長袖、長ズボンを着用が好ましい。靴にスパッツ装着、首にタオルを巻くのは、毒虫などが入り込むのを防止する有効な手段です。
- 出発するときは必ず他の人に知らせてから行く。携帯が通じないような地域ではトランシーバを利用すると良い。ホイッスルも有効。



携帯が通じる地域では残る人とは電話番号を交換する。

- 往路と大幅に違う経路で戻る、回収してそのまま車に帰る、回収した場所で分解などに長い時間がかかる、といった場合必ず連絡する。
- 蜂、ムカデ、ダニ、ヒルなどの虫、ヘビ、場所によっては熊に注意。動物の死骸には手を触れない。
- 断崖絶壁や有毒ガスが溜まっている場所（硫黄臭がする温泉地では特に注意）がないか地元の人などに聞いておくこと。



- 脱水症状には十分注意すること。上り下り、ヤブこぎでかなり発汗する。冬場の水分補給も重要です。ペットボトル一本持って出かけるだけでかなり安心。更に飴玉をポケットに忍ばせておくのも有効なおまじないです。足が痛くなった、急に寒くなった、などといった時に冷静に判断できる余裕に繋がります。
- いざというときは、あきらめが肝心。海や川への墜落を見届けたら機体にお別れが前提。機体はお金で買えます。
- あきらめた場合は、ルールに従い地権者やクラブ責任者などに連絡してください。森林整備の時に不時着機体が見つかったりすると事件になります。また「山に捧げ物をした」などの無神経なネットへの書き込みは慎むべきだと思います。飛行許可をとるために交渉してくれた方、許可を出してくれた方、維持管理している方に気遣うべきだと思います。
- 最後に、手伝ってくれた仲間に心より感謝を。

■火災防止

スロープソアリングでは、わざわざ風が強い草むらを探して、そこに集まって飛ばしています。冬になればかなり乾燥し、わずかな事でも大きな山火事になる可能性があります。

- 草地の上ではタバコの火は厳禁です。火の粉が飛び大変危険です。
- LiPo 電池は衝撃などで発火に至る可能性が高く、可能なら使用を控えたいところですが、現在の機材の事情から必ずしも現実的ではありません。クラブやエリアで事前にしっかり取り決めをする事をお勧めします。

■バンド・空域の占有時間

特にスロープでは 40、72MHz 帯は根強く存続するでしょう。その場所のバンド管理方法を良く確認し、決められていないようでしたらよく話し合っただけで定義して下さい。特に整備や搜索でバンドを長時間独占しない配慮が必要です。

では存分にスロープソアリングを楽しみましょう。